

## 野門～女峰～日光縦走

2000年代、僕らは毎年野門沢にアイスクライミングに行った。野門沢は布引滝を最奥にUの字型に崖が発達しており、ミソジF1、F2、友愛の滝、アトム、ウラン、対岸の滝など様々な滝が冬には凍り付き、絶好のアイスクライミングゲレンデとなっていた。2010年代になってエベレストの盟友谷嶋君と、冬期に野門沢を詰めて女峰山に登頂して日光へ至る縦走をしたいと、二人とも思っていることが判り、一緒に行こうと決めた。しかし、悪天、気温が高く氷が発達していないだろうとの判断、仕事、行ってみたら布引の滝の氷結が悪く途中で断念、僕がリードで布引の滝F2を登っている際にフォールして時間切れになるなど、なかなか布引の滝から先の世界を見ることができなかった。結局4～5回挑んだものの完走できなかった。

2023年2月3日、僕らは今回こそはと野門へ向かった。谷嶋君は常々「これを走破したら人類初となります」と言っていた。まず2日21:30日光の瀧尾神社駐車場に集まり、僕のをそこにデポして荷物を全部谷嶋君の車に移し野門へ向かった。しかし谷嶋君が銀マットを忘れたため日光宇都宮道路で宇都宮の谷嶋宅へ取りに行き、同じ道に戻って土沢で有料道路を降りて野門へ行った。野門集落の先、出来るだけ奥の駐車スペースに24時に駐車し車中泊、3日4時起床、5時発で登山開始。

7時に富士見峠へ続く道からはずれて布引の滝への遊歩道に入った。今までは交代交代で先頭を歩きラッセルしたが、63歳になった今49歳の元陸上長距離選手の谷嶋君と同じ速度で歩くことができなくなり、終始谷嶋君が先頭を歩いた。谷嶋君に「上小牧さん、ずいぶんゆっくりになりましたね」と言われたが、僕は1月も月間240km早朝ランニングをして来たので、それでも遅いのは自分のせいではないから気にしなかった。

8時に布引滝手前の小滝に到着。谷嶋君がランニングビレイも設置せずに登ったが、僕は途中でフィーフィーにぶら下がって休まねばならなかった。明らかに登攀力が落ちている。毎日ランニングの後マイボードでボルダーを20分間行ってから出勤し、週2回はアークにインドアボルダーしに行くのだが、以前より登れなくなっている。「俺はもう引退した方が良いでしょう」、60歳を過ぎてからしばしば考えていたことがまた頭をよぎる。でもこの山行は完遂しなければならない。

布引の滝を観察したところ、F1はシャンデリアを避けて登れそうだが、小滝でも息の切れた自分にはハードに感じられた。F2はなおさら大変だ。僕らはキャンプ用品を含め20kg弱は背負っていたので、腕の持久力が持たないと感じられた。谷嶋君も今年の発達の良い布引滝を登ることは困難と感じたようだ。布引滝登攀を断念し、左岸の尾根を登ることにした。これもかなりの急登で、ロープを出しアックスを使った登攀が随所に出てきた。最初の崖は谷嶋君も苦労して「上小牧さん、登れるかなあ」と言いながら登って行った。しかしフォロワーならばがれる可能性のある岩も思い切りつかめる。すんなり登り「速かったですねえ」と谷嶋君が感心したが、リードは辛い。ホールドが剥がれたりアックスが外れればフォール

だ。やっぱり谷嶋君はすごい。左岸の尾根を登るということは当初の予定である野門沢廻行を変更して尾根伝いに帝釈山に詰め上がることに計画変更することを意味した。それでも良いから完全走破を目指すことに僕らの意見は一致していた。

3日は1700数十m付近で幕営。20時過ぎに就寝して4日朝4:30起床したが、スリーシーズン用シュラフでは寒くてあまり眠れなかった。4日は最初急登でアイゼンを履いたが、傾斜が緩くなったところでスノーシューに履き替えた。シャクナゲなどの低木の上に雪が降り積もり空洞となっているため、その上を踏むと踏み抜いて股まで埋まってしまい、非常に苦労した。出発前は女峰山南面の避難小屋まで行こうなんて話していたが、ずっと手前、帝釈山まで標高差200mの2250m付近で13時に幕営することにした。帝釈山を越えて行く時間がないと判断したからだ。

その判断は正しかった。4日は7時に就寝し翌5日朝3:30に起床、6:20に行動開始したが、帝釈山頂手前で急な雪壁が出てきてまたロープを出すことになった。正午に山頂に着くと喜ぶ暇もなく600m超離れて東にそびえる女峰山に向かったが、かなりのナイフリッジで途中懸垂下降も行った。14時にやっと着いた女峰山山頂では10年来の目標を達成できた喜びで、谷嶋君と固い握手をした。

そこからは下るのみで楽かと思いきや、僕が脱水とハンガーノックに襲われ、歩行が極端に遅くなった。昔は飲み食いしなくても歩きとおしたものだったが、飢えにも弱くなったようだった。しかも吐き気がして固形物を食べる気力もない。僕はショット・エナジージェルを1本食べ、500mlしか用意しなかったテルモスの湯を少しずつ飲んだ。谷嶋君がアミノ酸サプリの最期の1本をくれた。それも服用し少し復活、歩行速度が回復した。谷嶋君はロープやアックスなど僕の荷物をじぶんのバックパックに移し替えて持ってくれた。しかし1時間もたたないうちに再度空腹と疲労感に襲われた。2本目のショットを補給し再度復活。さらに1時間後疲れ果てた。あと1時間くらいで瀧尾神社に着くと予想し、最後まで取っておいたチョコレートを食べた。口の中で容易に溶けて旨い。しかし瀧尾神社手前で力尽き、フラフラになりながら僕のフィアット・パンダが待つ駐車場へ歩いた。21時前に到着し、コンビニに行くと、僕は牛乳500mlを一気に飲んだ。野門まで走って谷嶋君の車を回収し、旧藤原町高德まで並走し、そこで宇都宮と西那須野方面へ別れた。谷嶋君、本当にありがとう。こんな年寄りじゃ苦労をかけるだけかもしれないが、もうしばらく付き合ってください。よろしく願いいたします。